

作新学院高等学校 情報科学部だより

平成 29 年 3 月 1 日発行

No. 8



第 89 回選抜高校野球大会出場記念の人文字撮影と新聞社からの記念ボール授与

第 89 回選抜高校野球大会出場記念の人文字撮影が行われました。1・2 年生約 2000 人がピンクや青などの布をかぶって人文字を作り、グラウンドに色鮮やかな「祝センバツ 作新学院 2017」の文字が浮かび上がりました。毎日新聞社のヘリコプターから記念のボールが投下され、人文字に参加した生徒たち全員から野球部の選手に応援歌などのエールが送られました。

商業システム科 課題研究発表会

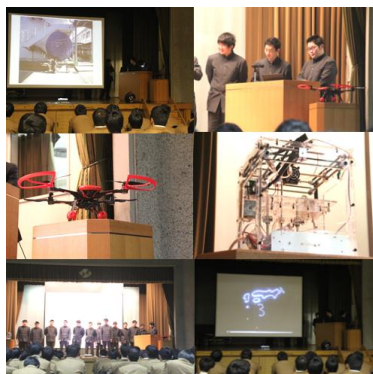
科長 中山哲夫



2 月 16 日(木)に平成 28 年度 商業システム科 課題研究発表会が聴蛙館で行われました。パワーポイント等を活用して、3 年生が 5 グループの自由テーマと、「楽天 IT 学校」に参加した 4 グループの研究発表を行いました。内容は商業に関するテーマを中心に、時事に関するものなど多岐にわたり、各発表ともとてもわかりやすく説明されていました。発表者はとても緊張している様子でしたが、特に「楽天 IT 学校甲子園 2016」に出場し総合準優勝に輝いたグループの発表には目を見張るものがあり、各グループとも立派に発表することができました。1・2 年生は来年以降の自分たちの立場に置き換えて大変興味深く聞いていました。

電気・電子システム科 科内表彰・課題研究発表会

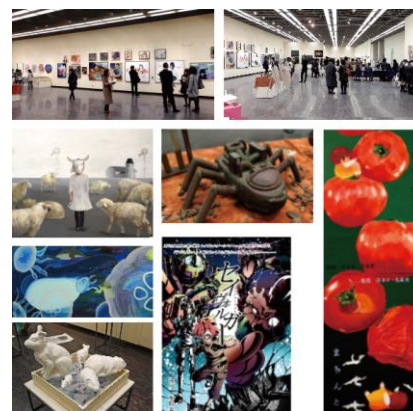
科長 岡部 明



2 月 17 日(金)に平成 28 年度電気・電子システム科科内表彰・課題研究発表会が聴蛙館で行われました。科内表彰では、技術コンクール上位入賞者、多資格取得者(工業系資格)そして高資格取得者などが表彰されました。引き続き 3 年生による課題研究発表会が行われ、6 テーマの研究発表があり、それぞれ 1 年間研究してきた成果をパワーポイント等を使って発表しました。3D プリンタやドローンなどの最先端技術を研究したグループもあり、1・2 年生も興味深く聞いていました。発表では、1 年間楽しく取り組んだ様子や苦労した点、更には完成した充実感なども伝わりました。

美術デザイン科 美術デザイン科卒業制作展を終えて

科長 田子 薫



『第 45 回美術デザイン科卒業制作展』を 2 月 1 日(水)・2 日(木)の 2 日間、栃木県総合文化センターで開催しました。

絵画・彫刻・イラストレーション・ヴィジュアルデザイン・立体デザイン・工芸・マンガなどの卒業制作と 2 年生の賛助出品合わせて約 200 点の幅広い作品展示となり、平日の開催でしたが 2 日間で延べ 600 名以上の来場者を迎えることができました。3 年間の学習成果として約 4 か月をかけ、それぞれの発想で試行錯誤を繰り返した作品は、個性豊かに表現されたものとなりました。

生徒たちは、それぞれの進路に向かってスタートしていきませんが、大きな励みと自信になったようです。

自動車整備士養成科 「三級自動車整備士合格証書授与式」

科長 木村健二

2 月 16 日(木)に自動車整備士養成科の行事である三級自動車整備士合格証書授与式ならびに資格試験多科目合格者表彰式が行われました。主役である 3 年生には、これまで目標に向けて頑張ってきた証となる自動車整備士合格証書が授与され、また 1・2 年生にとっては、先輩たちの立派な姿に刺激され「よし僕も頑張ろう」と奮起する絶好の機会となりました。10 月に試験が実施された三級自動車整備士の合格率は、96%と大健闘でした。また、多科目の資格試験合格者に与えられるジュニアマイスター顕彰の今年度の該当者は 19 名であり、このことから自動車整備士養成科の生徒がいかに資格試験に挑戦する意識が高いかが分かります。そして表彰式の後には、頑張った先輩たちから後輩へのアドバイスがあり、大変貴重な体験談を聞くこともできました。

まさに、努力した成果が現実として目の前に表れることは、どんなに優れた言葉にも勝ると言えるでしょう。来年度も、新 3 年生には先輩たちを越えられるよう頑張ってください。



普通科総合選択コース 進路ガイダンス

科長 大島 勇



普通科総合選択コースでは、2 月第 2・第 4 週の「総合的学習の時間」(1 年生:月曜日 6 時限目・2 年生:火曜日 6 時限目)を利用して、進路ガイダンスを行いました。1 年生は自分の興味のある職業分野を選び、講師の先生(大学・専門学校)から「その仕事の意義」を体験形式で説明を受けました。2 年生は、「就職希望」と「進学希望」に分けて指導を受けました。特に 2 年生の「就職希望」の生徒は 7 月に迫った「就職活動」へ向け、履歴書の書き方や面接の心構えの指導を受け、改めて「就職活動」の厳しさを認識していたようです。